



WE LOVE ふくしま



福島競馬場、再出発

震災を乗り越え再スタート

二〇一二年四月、東日本大震災による被害で開催が見送られていた福島競馬が、一年五カ月ぶりに再開。「福島復興祈念競馬」として実施され、開催の売上げの一部は被災地支援のために役立てられます。地元には再び活気をもたらした久々の福島競馬には、再開後初の週末となった四月七日・八日、二日間で三万二千人が来場。一昨年を上回る観客数に、福島競馬場総務課係長の近藤和明さんは「皆、地域のために再開したいという意識が強かったので、嬉しいですね」と、語ってくれました。

地域密着型の競馬場として地元の人々に親しまれてきた福島競馬場。福島市との防災協定で災害時の緊急避難所の指定を受けて



▲福島競馬場 総務課係長 近藤和明さん

いることもあり、震災時は公共性のある一企業として支援活動に徹しました。震災直後は地域住民や浜通りの被災者、その後は八月初旬まで飯館村からの計画避難住民の受け入れを実施。「競馬場自体も被災しているため、近隣に備えてある関係者用の宿泊施設を使っていたいただきました」と近藤さん。

大規模な改修工事と徹底した除染作業を実施

競馬場施設の本格的な改修工事は九月に開始されました。福島競馬場は、震災の影響によって上層階のスタンドの屋根が落ち、馬場を望むガラスが一部落下するなど大きな被害を受けたことから、大規模な改修工事が必要となりました。崩落したスタンドの天井部は重量物を建物本体に固定したり、つなぎ目に被害が集中したガラスは被害個所を強化するなど、安全面と耐震性の向上を徹底させていま

す。さらに、原子力発電所の事故に伴う放射性物質の除染作業も大掛かりなものでした。お客さまエリアの芝生撤去、表土の交換、タイルの張り替え、スタンドや遊具の高圧洗浄のほか、競走馬が走る芝コースの張り替え、土や砂で造成するダートコースのクッション砂の交換などを実施。「お客さまに安心してご来場いただくとともに、騎手や競走馬の安全を考慮し、徹底的に除染しました。芝の張り替え作業は着工前から行われ、着工後も一、二カ月は張り替えや砂の交換に費やされました」と近藤さん。工事は競馬開催前の三月まで続きましたが、ひと足早く張り替えられた芝は順調に根付き、今回の春開催は青々と生育した芝コースでのレースが実現しました。



▲ホームページ上で環境放射線量の測定値を公開



▲スタンド前広場の高圧洗浄

＜環境放射線量について＞

測定地点	測定値 (マイクログラム/平方メートル)
スタンド内平均	0.50
スタンド内平均	0.22
スタンド内平均	0.25
スタンド内平均	0.25

※ 上記のホームページ上で定期的に測定結果を公開しています。
※ 福島競馬場でも定期的に環境放射線量を測定し、専門のインフォメーションで公表しています。

測定方法

- 地上1メートル地点を基準として測定
- 1平方メートルの面積を測定
- 1平方メートルの面積を測定
- 1平方メートルの面積を測定

測定箇所

日本プロダクション(株)
シンプレックスサーベillance 703-1700
※ 福島競馬場の環境放射線量を測定しています。



▲コース全景

また、福島競馬場では再開前から二週間に一度、スタンドや馬場内広場、屋外観覧席などの環境放射線量を測定し、数値を場内インフォメーションに掲示。競馬開催期間中は、ホームページ上に測定数値を公開するなど、継続的な安全管理を行っています。

地元の人々に愛されてきた競馬場

福島競馬場は大正時代、一九一八年に開設。静岡県の藤枝競馬倶楽部（当時）が定款を変更し、福島競馬倶楽部（同）と改称し移転して以来、今日まで続いています。地元有志の働きかけにより実現した、〃念願の〃公認競馬でした。もともと福島の競馬の歴史は古く、明治時代半ばには、信夫山招魂祭の祭礼に福



▲アスレチック施設

島県産馬組合取締所主催の奉納競馬が行われていたとい
ます。馬と競馬を愛する地域性が、福島競馬場を育んだと
もいえそうです。

一九九七年にリニューアルされてからは、建物全体が明
るくきれいで女性も入りやすい雰囲気となっています。一
万人を収容することが可能ですが、それより余裕のある造
りとなっているのも特徴の一つです。レース前の競走馬を
見られるパドックは、上階のスタンドからも見渡せます。
一階のメモリアルコーナーには、競馬場の模型や福島競馬
場の歴史を物語る資料などが展示。競馬ファン必見の施設
となっています。

地元の人に親しまれてきた競馬場だけに、家族連れも多
く訪れます。競馬場の敷地内にはポニーリンク、ネットト
ランポリン、アスレチック施設、ボールプール・滑り台・
アスレチックが一緒になったメルヘンボックス、スポーツ

カーを再現したペダルカー、中に入って遊べるフワフワ遊具など、子どもが楽しめる施設が盛りだくさん。競馬開催期間は、家族を意識したイベントも多く催され、毎年行われる「馬の絵と写真コンクール」もその一つ。入賞作品は競馬場内に展示されます。いわゆるギャンブルのイメージとは程遠く、馬のテーマパークといった趣です。

福島競馬場が地域復興のかけ橋に

新幹線の駅から比較的近い街なかにあり、緑も多いという立地条件や自然環境の良さも、競馬ファンから支持される理由の一つ。競馬開催時は、温泉街や市内飲食店に多くの観光客が訪れます。旅行会社では温泉宿泊と競馬場指定席をセットにした企画も出しているほど。福島競馬の再開は、地元経済への波及効果に期待が寄せられます。まさに、競馬そのものが福島復興の支援につながるのです。「競馬ファンはもちろんですが、まだ競馬場に来たことがない方にもレースを見てほしいですね。十六頭の馬が集団で走る光景は迫力があります。馬が疾走する音による臨場感をぜひ味わってください」。近藤さんは競馬の魅力を熱く語ってくれました。

施設の損壊や放射線の影響など、困難を乗り越え再出発を果たした福島競馬場。再スタ

2012年 福島競馬場での競馬開催日

6月	16(土)	17(日)	23(土)	24(日)	30(土)	
7月	1(日)	7(土)	8(日)			
11月	3(祝)	4(日)	10(土)	11(日)	17(土)	18(日)

ートに当たり、福島競馬場の馬場内広場で復興を祈念した植樹が行われました。植樹には現役六騎手が参加し、シダレザクラの苗木が植えられました。「これからまた、地域と一体となり福島を盛り上げ、東北全体の復興に貢献できればと思います」と近藤さん。競馬場の賑わいが地域の人々に元気を与え、シダレザクラの成長は競馬場を訪れるすべての人に復興への道を標すものとなることでしょう。



▲植樹したシダレザクラ

所在地・アクセス

福島競馬場

〒960-8114 福島県福島市松浪町9-23

電話番号:024-534-2121

開催日	9:00～17:00
平日	10:00～12:00、13:00～16:00 (除:月・火曜日・祝日・年末年始・その他 臨時の休務日有り)

電車・バスをご利用の場合

- ・JR福島駅(東口)バスターミナル2、3番のりばからバスで約15分、「競馬場前」下車。料金220円。
- ・仙台、郡山等からも福島競馬場前までバスが出ております。詳しくは、福島交通ホームページをご覧ください。

